

特集「東北・北海道の鯨類化石研究の現在と展望」

長澤一雄¹✉Featured in this issue [Current Status and Prospects
of Cetacean Fossil Research in Tohoku and Hokkaido]Kazuo Nagasawa¹✉

鯨類は魅力溢れる生きものである。その力強いジャンプは何度見ても胸が躍り、流れるような体形には合理的な美しさがある。鯨類は新生代に最も海に適應した哺乳類となり、地球史上最大の生物となった。ある種は広大な海洋を遊泳するための生理と運動能力を獲得し、地球規模の回遊を可能としてきた。ある種は数千メートルの深海への潜水能力を得て、巨大なダイオウイカの追跡を可能にした。新生代の海はまさに鯨類の王国といえる。鯨類化石の記録は中新世以降に増加する。日本列島は中新世に大陸より分離し、その後も大きな変動が繰り返されたため、決して化石保存の適地とは言えなかった。それでも各地の厚い海成層には、鯨類化石が断続的に記録され続けてきた。北西太平洋の中緯度の日本列島は、過去から現在まで暖流と寒流に洗われながら多様な鯨類が回遊してきた。そしてこの場は世界的な鯨類化石の産地になった。鯨類の進化にはいまだに謎が多いが、このフィールドには鯨類の謎を解くたくさんの化石が眠っているに違いない。

化石研究会総会・学術大会の山形での開催の要請を受け、東北や北海道の鯨類化石に関するシンポジウムを企画した。その背景には、近年国内の研究者による鯨類化石の論文が国内外のジャーナルに次々に投稿され、国内標本に基づく新種が記載されるなど、鯨類化石の研究が活況を呈している状況があった。また、新第三系が発達する東北・北海道からは、今後も鯨類化石の産出と研究が期待されることから、鯨類化石の理解を深めることを趣旨として本シンポジウムを企画した。とは言え、世話人の率直な気持ちとしては、日々それぞれの仕事をこなしながら、一匹狼のごとく研究に没頭してこられた諸氏に敬意を表し、ここに一同に

会して鯨をめぐる様々な話に花を咲かせていただくことを第一に望んだ。才気溢れる人々の集いはそれ自体に意義があって、硬質で透明な科学論文だけでは得られない、何か異質のインスピレーションやエネルギーが期待されるからである。

シンポジウムの開催に際しては、趣旨にご賛同いただき7題の講演を行うことができた。そして本号の特集を組むために、シンポジウムの演者を中心に5本の論文を投稿していただいた。一島啓人氏からは北海道と東北地域の鯨類化石を俯瞰的に紹介しながら、化石の特徴や課題などについての的確な考察と総括的な議論をしていただいた。田中嘉寛氏ほかからは、自身が記載した北海道産の新種鯨類化石の紹介と、その活用による有益な博物館活動についての報告を行っていた。新村龍也氏ほかからは、古生物学と3DCG技術に関して、鯨類化石への応用の有効性と実践的な事例を紹介していただいた。瀬戸大暉氏ほかからは、山形県真室川町産の大型鯨類化石の発掘現場から発見された、鯨骨生物群集の特徴を示す化学合成貝類群集について検討していただいた。そして長澤一雄ほかは、秋田県男鹿半島の巨大なコンクリーションに含まれる鯨類化石の分類について報告した。これら論文の著者各位に感謝申し上げる。本シンポジウムに関して、全体的なご助言をいただいた三島弘幸会長と石田吉明運営委員長、特集号の編集において終始お世話いただいた小幡喜一編集委員長、そして有益なご意見をいただいた査読者など、関係各位に厚くお礼申し上げます。

科学に向かう根源の力とは何か。私は「驚き」にあると思っている。自身のことだが、庄内海岸の磯に打ち上げられたオウギハクジラを初めて調査したときの

¹ 〒990-0826 山形市霞城町1-8 山形県立博物館

Yamagata Prefectural Museum, 1-8 Kajomachi, Yamagata 990-0826, Japan

✉E-mail: nagaswhale111@gmail.com

経験を述べておく。その鯨は物言わぬ亡骸となっていたが、大きな質量と存在感は圧倒的であり、生物に必ず訪れる「死」の必然性を強力に主張していた。目の前の大きな漂着個体から、現生と化石が融合したような不思議な驚きの感覚を覚えた。次いでこいつは一体何者か、を知りたい衝動が突き上げてきた。だが、情熱を維持することがいかに困難かは身に染みている。今日も反省を繰り返している。

最後に、古沢 仁氏であるが、2023年9月に他界さ

れた。シンポジウムの2題の共同演者であり、参加のお誘いをしていたが欠席された。古沢氏にとって山形は海牛研究の思い出の地である。タキカワカイギュウの記載のために博物館へ来られ、夜遅くまで収蔵庫でヤマガタダイカイギュウと向き合っておられた。人懐っこい笑顔で学会に参加されるものと心待ちにしていたが、叶わなかった。思えばやはり体調がすぐれなかったのだろうか。謹んで故人のご冥福をお祈りする。